

SCHOOL DATA

〒299-0115 市原市不入斗753
 TEL.0436-66-0026 FAX.0436-66-7097
 ■児童数/307人 ■教職員数/19人 ■周辺環境/住宅地、山林 (平成20年5月1日現在)



生き物探し

ビオトープの概要

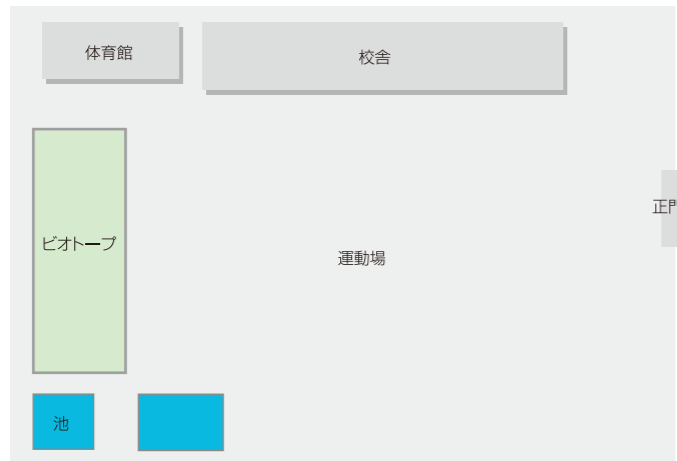
- 場所/学校敷地内
- 面積/890㎡
- 設置者/学校
- 設置した年/1994年
- 直近の改修年/2006年
- 主な管理者/教職員
エコクラブ
わかなえ隊

<コンセプト>

ビオトープは、学校の校庭の東側のコーナーに設置してある。ビオトープ内には、メタセコイア、シラカシ、アオギリ、ケヤキ、ヒノキ、イチョウといった樹木があり、その下には、自然の植物群が自生している。水源を井戸水とし、水の量を調整しながら流している。

身近な自然を学校の敷地内の一部に再生することにより、子供たちが普段体験することができない水生生物や昆虫、植物、野鳥といった生物に実際に接することにより、自然に対して、興味関心が持てるように配慮した。

また、環境教育の教材として、豊かな体験活動ができるような、教材化を目指している。このようなビオトープの活用を家庭や地域、近隣の学校や公共施設にも発信していく計画もしつつある。



生息している生物

植物: イヌタデ、ミスヒキ、ハコベ、ドクダミ、ゲンノショウコ、カキドオシ、キツネノマゴ、エノコログサ、チカラシバ、ササ、ドクダミ等

動物: カワセミ、モズ、シジウカラ、セグロセキレイ、アオサギ、ダイサギ、キジバト、エナガ、コゲラ、ヒヨドリ、メダカ、ドジョウ、フナ、カワナナ、スジエビ、シジミ、モツゴ、クロスジギンヤンマ、ギンヤンマ、アオサナエ、オニヤンマ等

今後生息させたい生物

ホタルの育成に向けて活動を展開している。学校で孵化させた幼虫をこの夏放した。



ビオトープ清掃



ビオトープの動植物

ビオトープの活用方法

本校では、環境学習の一環として、主に3年生が中心となって活用をしているが、全校児童が常時活用している。3年生はビオトープに生息している生物はもちろんのことビオトープに集まる生物までも調査の対象として学習を進めている。

また、ビオトープ通信を発行し、全校児童と家庭・地域社会に発信をしている。内容としては、ビオトープ内に生息する動植物、昆虫や飛来する野鳥などを取り上げ紹介している。また、子供たちの活動の様子なども発信している。

12月には保護者向けの発表会も予定している。

ビオトープの効果

■児童への効果

環境学習の時間だけではなく、休み時間など、常時、ビオトープに関わり活動が続いている。昨年度に比べ、多くの子供たちがビオトープに関わる時間が多くなった。動植物の名前もたくさん覚え、知識も豊富になった。

■教職員への効果

ビオトープ活用の教材化に向け、真剣に研究を進めている。

■保護者、地域住民への効果

地域の方々はビオトープに関心が強く、ビオトープ通信が効果を上げている。

保護者、地域との連携

保護者

12月に3年生が発表会を保護者向けに実施する。その際、ビオトープに直接かかわっていただけるよう協力依頼をする。

その他

地域に「わかなえ隊」というボランティア組織が立ち上がった。この組織との連携を深めて行く予定である。

地域住民(ホタルを守る会の立ち上げを予定)

今後、ホタル池の管理やホタルの幼虫の里親を、ホタルを守る会で活動していきたい。

整備・活用・管理等の課題

ビオトープを活用した環境学習プログラムを開発中である。この開発をもとに、ビオトープを効果的に活用していく方法を考えたい。

子供たちが常時活用していくので、ビオトープ内も破損していく可能性もでてくる。これは、学校だけで修理できない面もあるので、地域や保護者との連携を深め、協力をあおぎたい。

今後の展望

ビオトープ内にホタルの出現を指向している。たくさんのホタルを飛ばすことにより、家庭や地域社会へと呼びかけ、ホタル鑑賞会を実施したいと考えている。その実現に向けて、準備を進めている。

整備を担当した教員の感想

子供たちが常時使っているのでも、整備する必要があると思っていた。木道を作ることによって、ビオトープ自体が変形することなく保たれるので、是非、全面を木道にすることができたらよいと思う。

